

令和 6 年度施設関係者評価報告書

学校法人八正学園

認定こども園ハイロスハイマ

令和6年度施設関係者評価報告書概要

1.教育・保育目標

当園では「心身ともに健やかな育成のため乳児期から連続性のあるかかわりを通し豊かな人間性の醸成をはかるとともに生きる力を培う」教育・保育理念とし、6つの保育テーマにより、こころもからだも健やかな子どもに育つことを目指しています。

1. 生きものの生命（いのち）を大切にする子
2. 丈夫なからだで元気よくのびのびした子
3. 友だちと仲よく力を合わせて遊べる子
4. 自分のことは自分ででき、必要なときにはがまんができる子
5. 思ったことがはっきり外に表現できる子
6. いろいろ創意工夫した事を楽しんで表現できる子

2.自己評価結果

保育の質の向上のために、日々の保育を自己評価いたしました。
自己評価の観点とは、「保育の在り方、幼児への対応」及び「保育教諭としての資質や能力・良識・適それぞれの項目について、以下の評価基準で採点し、全員の平均値を算出しております。

4. よくできている
3. まあまあできている
2. あまりできていない
1. まったくできていない

I 保育の計画性

内 容		
1、園の教育理念・教育方針の理解		
①	園の教育理念や教育方針を理解し共感している	3.4
②	園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる	3.0
2、教育・保育要領の理解		
①	教育・保育要領を理解し、園児の姿や環境の構成、保育教諭等とのかかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる	3.2
3、全体的な計画の編成と評価		
①	園の全体的な計画は、教育・保育要領をふまえ園の教育理念・教育方針に従い編成している	3.2
②	園の全体的な計画は、社会状況や園児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	3.2
4、指導計画の作成		
①	指導計画は、園児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している	3.1
5、環境の構成		
①	指導計画に基づいて、園児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている	3.3
②	楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている	3.4
③	園児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている	3.3
④	園児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている	3.4
⑤	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	3.1
⑥	遊具・保育室等の安全点検を定期的に行っている	3.6
6、保育と計画の評価・反省		
①	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている	3.4
②	お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、園児の生活と自らの保育につなげている	2.9

Ⅱ 保育の在り方、幼児への対応

内 容		
1、健康と安全への配慮		
①	朝の登園時は特に視診を大切にして園児の体調が悪くないかを確認している	3.6
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	3.8
③	保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、園児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖などの既往症について把握している	3.5
④	体重・身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している	3.4
⑤	家庭と連携をとりながら食への意欲を育てている	3.2
⑥	睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）、およびSIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している	3.6
⑦	一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせて、オムツ交換をしたり、トイレに促している	3.5
2、園児のみとりと理解		
①	園児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している	3.4
②	一人の園児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	3.3
③	個々の園児の発達や課題について見通しをもって理解できる	3.2
3、指導とかかわり		
〔心のよりどころとして〕		
①	園児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている	3.6
②	園児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている	3.7
③	園児の話をよく聞くようにしている	3.6
④	“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている	3.2
〔遊び・活動の援助者として〕		
①	園児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイディアを提供している	3.2
②	園児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている	3.5
③	禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	3.1
〔その他〕		
①	園児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている	3.1
4、保育教諭同士の協力・連携		
①	クラスに関係なく、その場にいた保育教諭が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している	3.4
②	指導上配慮を必要とする園児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている	3.1
③	他クラスや異年齢の園児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れている	3.1

Ⅲ 保育教諭等としての資質や能力・良識・適性

内 容		
1、専門家としての能力・良識・義務		
〔専門家としての能力〕		
①	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている	3.1
②	保護者に対し、園児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	3.3
③	保育教諭等並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている	3.3
④	保育教諭等の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している	3.7
〔良識とマナー〕		
①	園児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている	3.7
②	朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている	3.7
③	園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	3.9
④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	3.8
〔義務〕		
①	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	3.4
②	締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている	3.6
2、組織の一員としての在り方		
①	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる	3.2

②	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している	3.7
③	当番や役割による仕事を理解し確実にやっている	3.5
④	上司の指示、命令には責任を持って実行している	3.7
3、まわりを感じ取れる感性・アンテナ		
①	園児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている	3.3
②	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている	3.3

Ⅳ 保護者への対応・守秘義務

内 容		
1、情報の発信と受信		
①	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	3.0
②	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝え合っている	3.3
③	保育参観や保護者面談を定期的に行い、子どもについて、保育や家庭でのあり方について共通理解を得るように努めている	3.2
④	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	3.3
⑤	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている	3.3
2、協力と支援		
①	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている	3.6
②	必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる	3.0
3、守秘義務の遵守		
①	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	3.9
②	秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	4.0
③	秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している	3.9
④	秘密情報の帰属は園または法人にある事を認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は園長の許可を取っている	4.0
⑤	秘密情報の書類、電子データのコピーは園長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している	3.9
⑥	秘密情報について新たに知れたことについては、直ちに園長に報告している	3.9
4、対応上のマナー・良識		
①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	3.3
②	親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	3.5
③	電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている	3.3
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	3.7
⑤	長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	3.1
⑥	保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない	3.8
5、クレームへの対処の仕方		
①	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	3.7

Ⅴ 地域の自然や社会とのかかわり

内 容		
1、地域の自然・人々とのかかわり		
①	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	3.5
②	地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	3.1
③	子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談および連絡先を把握している	3.1
④	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している	3.1
⑤	中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解・確認している	3.2
2、小学校との連携		
①	園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している	3.4
②	小学校の教育内容について理解するよう努めている	3.2
③	小学生が遊びにくることの出来る場（行事等を含む）を設けている	3.2
3、地域の特徴を生かした保育の展開		
①	高齢者との交流のために、デ「イ」交流・行事への参加の呼びかけなど積極的に行っている	2.8

Ⅵ 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

内 容			
1、研修・研究への意欲・態度			
①	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている		2.9
②	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育教諭等や主任、園長と話し合っている		3.2
2、遊具・教材に関する専門性の向上			
①	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている		3.4
②	園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる		3.4
3、今日的課題に関する専門性の向上			
①	子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている		3.4
②	アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている		3.6
③	幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている		3.4
④	こどもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている		3.5
4、自らを高めるための学習			
①	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある		3.1

Ⅶ 地域における子育て支援

内 容			
1、自園の子育て支援事業の理解（全教職員）			
①	地域開放（親子保育園体験日・行事など）について職員間で共通理解の上取り組んでいる		3.0
②	自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる		2.9
③	親しみやすい雰囲気をはがけ、利用者に積極的に声をかけている		3.3

3.施設関係者評価委員会による評価・意見

上記の自己評価の客観性等を高めることを目的に、施設関係者評価委員会を実施いたしました。出席委員は以下の通りです。

出席委員：保護者1名・法人職員1名・法人内園長1名
学識経験者1名・認定こども園ハイレソハイマ職員1名

評価委員会での意見

- ・自己評価のポイントは比べる上で必要ではあるが、大切なのは日々の保育を振り返ること。ポイントが低いということは適当にしているわけではなく、自己評価に真摯に向き合っているということ。反省するところは各自が意識して、次年度の課題として取り組んでいく。
- ・保育教諭等の日頃の生活の状況が園児へのかかわりに影響する。日常生活が充実していないと保育を楽しむことができない。そういう点で、休日にリフレッシュしたり趣味をもつことが大切である。
- ・保育を見合うことが難しい場合、保育をビデオに録ってあとで見て確認することも一つの方法。言葉で伝えるよりもわかりやすい。
- ・公開保育では廃材による楽器作りをした。作って遊んで終わるだけではなく、時間内に作れなかった子に対してどれだけ寄り添えるか、どの材料や素材を使ったらよいか子ども達とさらに深めていくことが大切。

上記のような意見をいただきましたので、今後の運営・保育にいかしていきたいと考えております。本件について、不明な点等ありましたら、園（中谷）までご連絡ください。

以上